

ヨハネ第二書序言

本書の受取人 「エクレクテ・クリア」とあつて「選みをこころむった夫人」と訳されるが、それが普通の家婦であるか、あるいは地名であるか、あるいは一つの教会であるかについては種々の説があつて定めにくい。

本書の目的 相愛の実行を勧め、真の信仰、殊にキリストの託身について固く守ることを教え、当時起つて来た種々の異端者で、この真理を否む者と絶交すべきことを忠告することにある。

本書の区分 初めの挨拶（一〜三節）のち本文に移り、まず祝賀して（四節）、相愛および従順を勧め（五、六節）、異端者に対する重大な忠告を与え（七〜九節）、これに対してなすべき処置を命じ（十、十一節）、末文をもつて結ぶ。

本書をしたためた年代および場所 これについては確定しにくいが、あるいはエフェゾで聖ヨハネの末年すなわち第一世紀の終わりごろにしたためたものであるか。

使徒聖ヨハネ第二書簡

- 1 挨拶 1 長老は、¹選みをこうむりたる夫人およびその子ども、すなわちわれならびに、ただわれのみならず、すべて真理を知れる人もまた、2 今われらのうちに留まりて、しかも限りなくわれらとともに存すべき真理に対して誠に愛するところの者に「書簡を送る」。
- 3 祈るところ 3 願わくは、恩寵と慈悲と平安とが、父にてまします神および父の御子イエズス・キリストより賜わりて、真理および愛において汝らとともにあらんことを。
- 4 本文。愛の必要 4 われ汝の子どもうちに、われらが父より掟を受け奉りしごとくに歩める者あるを認めて、はなはだ喜べり。5 夫人よ、今新しき掟を書き送るものとせず、これを初めより受けたるものとして相愛せんことを汝にこいねがう。6 愛とは、われらがその御掟に従いて歩むべきことこれなり。掟とは、すなわち汝らが初めより聞きたるがままに歩むべきもの¹これなり。
- 7 異説者に用心すべし 7 けだし肉体にて来り給うイエズス・キリストを宣言せざる多くの誘惑者、世に出でたり、これぞ誘惑者にして、また非キリスト²なる。8 汝ら、おのれに省みて、われらがかつて働きしところを失わず、³充滿せる報酬を受くるようにせよ。9 すべてキリストの教えに留まらずして退く者は神を有し奉らず、教えに留まる者は父および御子を有し奉る。10 もし汝らに至る者にして、この教えをもたらずことなくば、これを家に入るることなく、これに挨拶することなかれ。11 そはこれに挨拶する人は、その悪しき業にあずかればなり。

12 結末 12 書き送るべきことな多しあれども、われは紙と墨すずをもつてするを好まず、これ汝らの喜びの全からんために汝らのうちうちにありて口ずから語らんことを希望すればなり。

13 伝言 13 選みしをこころむりたる汝の姉妹しきの子ども、汝しによろしくと言えり。

① すなわち愛の掟。② キリストの大敵の意。ヨハネ一書 2・18、4・3